

11. 道徳論文

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成Ⅱ

**自分の生き方を見つめ、よりよく生きようとする自分のよさを実感する子どもの育成
～子どもの道徳的価値にかかわる意識を連続・発展させる道徳教育カリキュラムの創造～**



I	研究の目的	133
1	研究の背景	133
2	研究の方向	133
II	研究内容	134
1	自分の生き方を見つめ、よりよく生きようとする自分のよさを実感する子どもとは	134
2	子どもの道徳的価値にかかわる意識を連続・発展させる道徳教育カリキュラム創造の基本的な考え方	135
3	子どもの道徳的価値にかかわる意識を連続・発展させる道徳教育カリキュラムの全体構想	135
(1)	各教科等や体験活動等との関連を図った道徳教育全体計画の作成	135
(2)	子どもの道徳的価値にかかわる意識やその連続・発展していく過程を示した指導計画の作成	136
(3)	自分の生き方を見つめ、よりよく生きようとする自分のよさを実感させる言語活動の考え	137
4	子どもの道徳的価値にかかわる意識を連続・発展させる道徳教育カリキュラムの具体化	138
(1)	各教科等や体験活動等との関連を図った道徳教育全体計画	138
(2)	子どもの道徳的価値にかかわる意識やその連続・発展していく過程を示した指導計画	138
(3)	自分の生き方を見つめ、よりよく生きようとする自分のよさを実感させる言語活動例	140
III	研究の実際	141
1	実践の基本的な立場	141
2	指導計画と子どもの姿の設定	142
3	実践の結果と考察	143
IV	研究の課題と成果	144
1	研究の成果	144
2	研究の課題	144

【学校教育目標】

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成 【校訓】 まことの子・ちからの子・のぞみの子

【目指す子ども像】

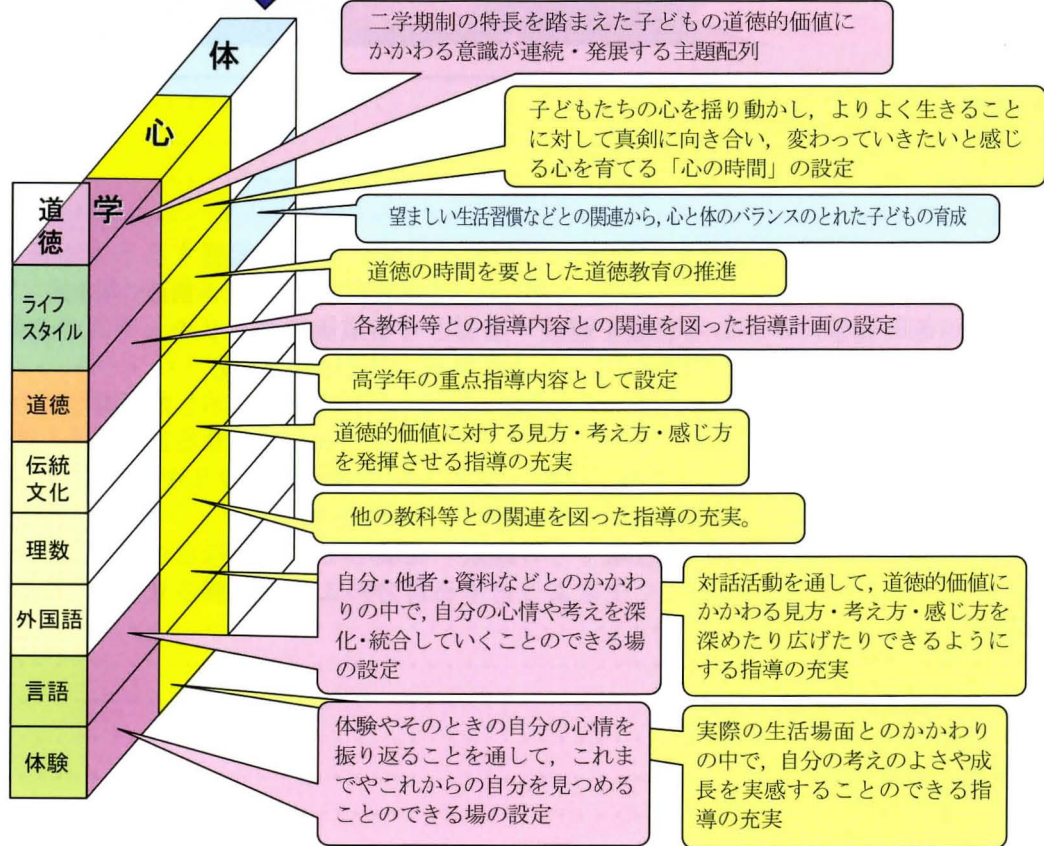
(知) 互いの考えに学び合う子ども (徳) 心と心がひびき合う子ども (体) 心と体をきたえ合う子ども

【本校の主な教育課題】

確かな学力の面から ○論理的な思考 ○伝え合う方法の習得 ○学ぶ喜びや楽しさの実感	豊かな心の面から ○人間関係(他者意識) ○自己の発揮の仕方 ○多様な体験	健やかな体の面から ○基礎体力 ○生活習慣 ○健康・安全
---	---	---------------------------------

【確かな学力、豊かな心、健やかな体を調和的にはぐくむカリキュラム】

		健やかな体をはぐくむ観点(体)													
		豊かな心をはぐくむ観点(徳)													
カリキュラム創造の視点		確かな学力をはぐくむ観点(知)													
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳	外国活動	総合	特活	複式
内容	学校のリフスタイルの見直し														
	道徳教育の充実														
	伝統や文化に関する教育の充実														
	理数教育の充実														
	外国語教育の充実														
	方法	言語活動の充実													
	体験活動の充実														



I 研究の目的

1 研究の背景

今回の学習指導要領の改訂において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」の育成がますます重要とされ、その中で、豊かな心の育成においては、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の推進と充実が強く求められている。

このことの背景には、社会全体のモラルの低下や家庭や地域社会の教育機能の低下などの諸問題、また、自分への自信の欠如や自らの将来への不安を子どもたちが抱えているという実態などが挙げられている。それらの課題をうけ、道德教育をより推進し、子どもたちが自分の未来に夢や希望をもち、社会を構成する一員としての自覚をもってよりよく生きていこうとするために必要となる道德性や道德的実践力を育成することが求められている。

本校においても昨年度より学習指導要領改訂の主旨を踏まえ、道德教育をより推進するための研究・実践を進めてきた。その結果、道德教育においては指導内容の重点化の視点や体験活動や各教科等の指導内容との関連を踏まえた指導計画の具体化に向けての視点を明らかにできた。また、道德の時間においては、目標に新たに追加された「自己の生き方への考えを深める」ということを踏まえた授業の展開の考え方について明らかにできた。

しかし、その一方で、普段の生活や様々な体験活動の中で感じている道德的価値を踏まえた自己の見つめ方・自己への問いかけ方が十分に発揮されておらず、そのことが十分な道德的実践力の育成につながっていないのではないかという課題も明らかになってきた。

2 研究の方向

本年度は、昨年度までの研究・実践によって明らかになった成果と課題を基に、めざす子どもの姿を設定し、その具現化に向けた道德教育のカリキュラム、つまり、道德教育全体計画や道德の時間の指導計画の在り方について、また、道德の時間の指導そのものについても、本校なりの考えを明確にする必要がある。

道德教育の目標は子どもたちの道德性の育成にあるが、その道德性は日々の生活や体験、様々な人や事象とのかかわりを通して意識される道德的価値に対して、自分の生き方の中で重要なことだと自覚することではぐくまれていくものである。

そのためには、まず日々の生活等とのかかわりを通して意識される道德的価値と、道德の時間に学ぶ道德的価値との関係性を意識することで、自分の生き方をしっかりと見つめ、道德的価値に対する見方等を深めたり広げたりできなければならない。そうしてとらえた道德的価値をこれからの自分の生き方の中でとらえ直そうとする中で、そのことのよさやよりよく生きようとする自分のよさを実感する。さらには、道德的価値の重要性を自覚することになり、子どもたちの道德的実践力は高まっていくのではないかと考えた。

また、そのような子どもを育成するために、道德教育カリキュラムの創造においては、道德の時間と日々の生活等において意識される道德的価値との関連を図ることが必要だと考えた。それぞれの場面で意識される道德的価値が連続し、発展していくように関連を図ることで、自分の変容や成長に気付くことができ、よりよく生きることや、よりよく生きようとする自分のよさを実感することにつながっていくと考えたからである。そこで、研究主題と副題を次のように設定することにした。

**自分の生き方を見つめ、よりよく生きようとする自分のよさを実感する子どもの育成
～子どもの道德的価値にかかわる意識を連続・発展させる道德教育カリキュラムの創造～**

Ⅱ 研究内容

1 自分の生き方を見つめ、よりよく生きようとする自分のよさを実感する子どもとは

子どもたちの道徳性は、日常の生活等との豊かなかかわりの中で多様な価値観に出会ったり、新たな価値に気付いたりすることではぐくまれるものである。しかし、子どもたちは自分が多様な価値観に出会ったり、新たな価値に気付いたりしたという認識をもつことはあまりない。自分のこれまでの判断や行動が、どのような考えの基によるものかを振り返ることは、自分が多様な価値観に出会ったり、新たな価値に気付いたりしたということを認識させ、これまでの自分の生き方を見つめることにつながっていくと考えた。

また、これまでの自分の生き方を見つめた上で、そこから生まれた疑問や問題意識を、これまでの自分の生き方とのかかわり、友達や教師、資料等とのかかわりを通して解決していくことは、日常の生活等とのかかわりと同じように、多様な価値観に出会ったり、新たな価値に気付くことになり、自分の道徳的価値に対する見方等を深めたり広げたりしていくことにつながっていくと考えた。

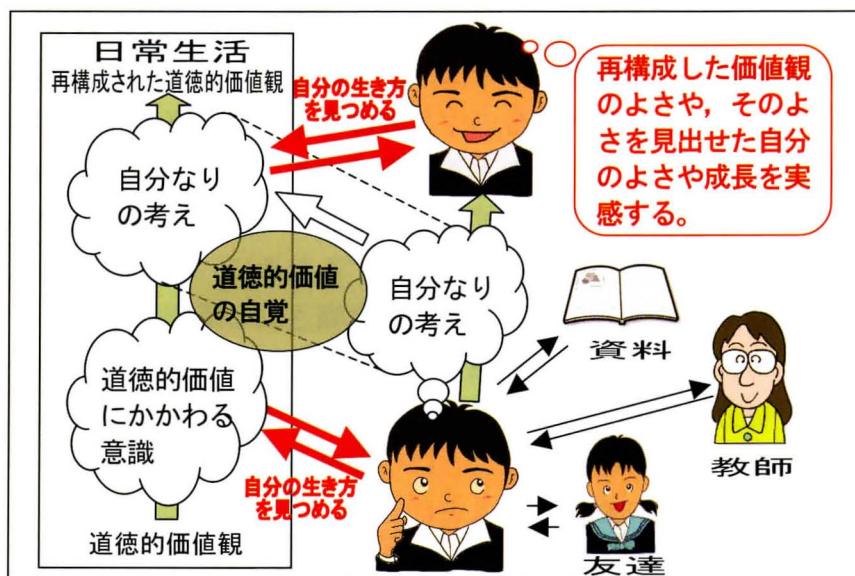
さらに、実際の生活場面を想定して、これからの自分の生き方として、それらの道徳的価値に対してどのようにかかわっていくかを考えることは、道徳的価値に対する有用感や有能感を高め、道徳的価値観を再構築していくことにつながっていく。また、再構成した道徳的価値観のよさや、そのよさを見出すことのできた自分に成長を実感したりしていくことにつながっていくものだと考えた。

したがって、このような子どもを育成することは、道徳的実践力を身に付けさせ、よりよい道徳性をはぐくむことにつながっていくと考える。そして、それを通して豊かな心をはぐくみ、学校教育目標で掲げた「夢や目標をもち、共にみがき高め合う子ども」を育成し、自分の未来に夢や希望をもち、社会を構成する一員としての自覚をもってよりよく生きていこうとする子どもを育成していくことにつながっていくと考える。

このような考えから、自分の生き方を見つめ、よりよく生きようとする自分のよさを実感する子どもとは、日常の生活や体験、様々な人や事象とのかかわりの中で、自分の道徳的価値観との関係性を通して自分の生き方を見つめ、自分なりの問題意識をもって解決していこうとする子どもである。また、解決する過程で、自分なりの道徳的価値に対する見方等を深めたり広げたりするとともに、

日常の生活等とのかかわりの中で、道徳的価値に対してどのようにかかわっていくかを考えることで、自分の道徳的価値観を再構成しようとする子どもである。

さらに、再構成した道徳的価値観のよさや、そのよさを見出すことのできた自分に成長を実感することのできる子どもである。



【図1 自分の生き方を見つめ、よりよく生きようとする自分のよさを実感する子ども】

2 子どもの道徳的価値にかかわる意識を連続・発展させる道徳教育カリキュラム創造の基本的な考え方

道徳教育カリキュラムを創造するに当たり、学習指導要領の改訂のポイントとの関連や全体研究で示されたカリキュラム創造の視点も踏まえ、めざす子ども像を具現化し、子どもの意識を連続・発展させる道徳教育カリキュラムを創造するという立場から、道徳教育の抱える課題も踏まえ、次のような視点を設定した。

(1) 道徳の時間を要とし、重点とする指導内容や活動内容で関連を図るようにする。

道徳教育は学校における全教育活動を通して行われるものであることを考えると、すべての指導内容や活動内容が道徳教育と関連付けられることになる。しかし、それをすべて関連付けたり、系統立てたりしていくことは難しい。

そこで、各学年で重点とする指導内容や活動内容に注目し、それらの内容と関連を図った道徳教育全体計画や年間指導計画を具体化していくようにした。

内容に着目して関連を図ることで、「何をするのか」ではなく、「何を指導するのか」に目を向けた道徳教育が推進されるのではないかと考えた。

(2) 道徳的価値にかかわる意識を連続・発展させるような指導の流れを明らかにする。

日常生活の中で様々な人や事象とのかかわりの中で意識する道徳的価値にかかわる気持ちや考えは、子どもたちにとって道徳的価値にかかわるものだと明確に自覚できるものではないと思われる。そのため、それらの意識が自分の生き方を見つめる足がかりとなるものであったり、よりよく生きようとする自分の願いにつながったりするものだと感じることは少ない。

そこで、子どもたちがどのような人や事象とのかかわりの中で、どのような道徳的価値にかかわる意識をもつのかを教師が把握し、道徳の時間とのかかわりの中でそれらの意識と連続性をもたせて指導したり、発展させるように指導したりすることで、自分たちの意識したものが道徳的価値にかかわるものであると明確に自覚できるようにしなければならないと考えた。

(3) 道徳の時間で言語活動を充実する中で、関連する各教科等の指導内容や体験活動等での意識をどのように連続・発展させるかを明らかにする。

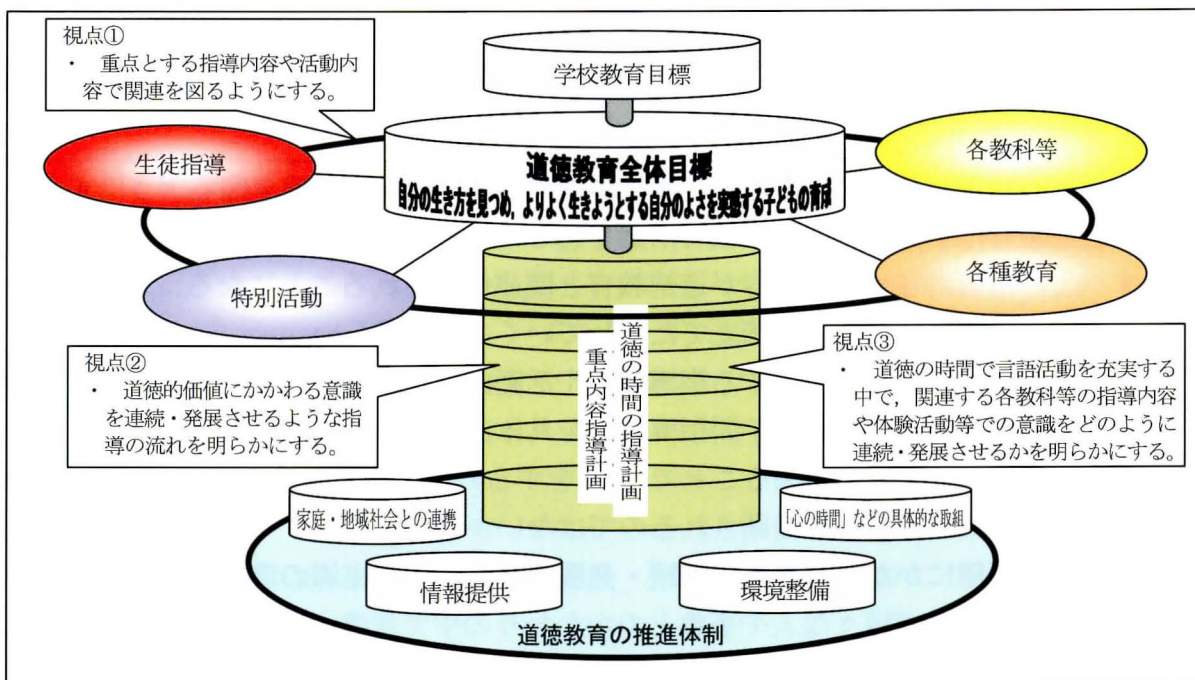
子どもたちは日常生活の様々な人や事象とのかかわりの中で感じている様々な意識の中に、道徳的価値にかかわるものがあるとは認識していない。また、自分の生き方を見つめる足がかりになるものであったり、よりよく生きようとする自分の願いにつながるものであったりするとは感じてはいない。そのことを言語活動を通して、子どもたちに感じさせ、考えさせる必要がある。言語活動を通して、資料や友達、教師などとかかわらせることで、これまであまり深く考えることのなかった道徳的価値にかかわる意識について、自分なりに整理したり、関係付けたりすることができるように、明確に道徳的価値として自覚できるものにしていくことができると考えた。

3 子どもの道徳的価値にかかわる意識を連続・発展させる道徳教育カリキュラムの全体構想

(1) 各教科等や体験活動等との関連を図った道徳教育全体計画の作成

道徳教育カリキュラム創造の視点を踏まえ、道徳教育カリキュラムの全体構想を図2のように示した。道徳教育と各教科等や生徒指導などの指導内容との関連を踏まえた道徳教育全体計画や年間指導計画の作成、さらに、重点とする指導内容について、子ども

の道徳的価値にかかわる意識とその連続性や発展性に着目した指導計画を作成していく構想である。



【図2 道徳教育カリキュラム全体構想】

(2) 子どもの道徳的価値にかかわる意識やその連続・発展していく過程を示した指導計画の作成

指導計画を具体化する際には、各教科等の指導内容や体験活動において、子どもがどのような道徳的価値にかかわる意識をもつのか、それが道徳の時間とのかかわりの中でどのように連続・発展していくのかを明らかにする必要がある。

各教科等での指導内容との関連や体験活動との関連を考えていくことは、これまでも行われてきた。しかし、ただ指導時期を考慮し、各教科等の指導や体験活動と道徳の時間とを配列しただけでは、十分に効果が得られないのではないかと考えた。各教科等との関連を具体化していく場合には、各教科等の特質も踏まえ、効果的な指導を行うことができるかどうかを十分に吟味していく必要がある。

そこで下に挙げた手順で、指導計画を具体化していくことにした。

指導計画具体化の手順

- ① 各教科等の指導内容や体験活動の中で、子どもが道徳的価値を意識することができると思われるものを学年ごとに洗い出し、一覧を作成する。
- ② 各学年の重点化した指導内容を中心に、道徳の時間と関連を図ることが効果的であると思われる各教科等の指導内容や体験活動を抽出する。
- ③ 各教科等の指導や体験活動における子どもの意識や、道徳の時間に想定される子どもの意識を明らかにし、子どもの意識が連続・発展していく流れを示した指導計画を作成する。

各教科等の指導内容や体験活動において、子どもが道徳的価値を意識することができるものを洗い出す際には、表1で例を示したように、「関連性を踏まえつつ、年間を通した活動、また、教科及び領域の学習全体を通して行っていくもの」と、「活動、単元や題材の中に含まれる道徳的価値を明確にすることで関連性を設定することができるもの」に分けられた。

【表1 各教科等、体験活動における子どもの意識できる道徳的価値の分類例】

第5学年	各教科等	体験活動等
関連性を踏まえつつ、年間を通した活動、また、教科及び領域の学習全体を通して行っていくもの	国語：国語を尊重する態度を育てること。 →4-(7) 算数：日常の現象について見通しをもち、筋道を立てて考え、表現する能力を育てる。 →道徳的判断力の育成に資するもの	委員会活動 →2-(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。 →4-(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。 →4-(6) 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。 など
活動、単元や題材の中に含まれる道徳的価値を明確にすることで関連性を設定することができるもの	音楽：日本古来の音楽を聴いたり、楽器を弾いたりすることを通して、日本や郷土の伝統と文化を愛する心情を育てること。 →4-(7), 4-(8) 理科：植物の栽培や動物の飼育を通して自然を愛する心情を育てること。 →3-(1), 3-(2)	自然教室 →2-(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。 →3-(2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にす。 →4-(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。 など

このことを踏まえ、各学年の重点化した指導内容を中心に、実態調査等の結果から子どもが道徳的価値を意識しやすい各教科等の指導内容や体験活動等の傾向性を考慮した上で、道徳の時間と各教科等の指導内容や体験活動等との関連を明確にした年間指導計画を作成していくことにした。

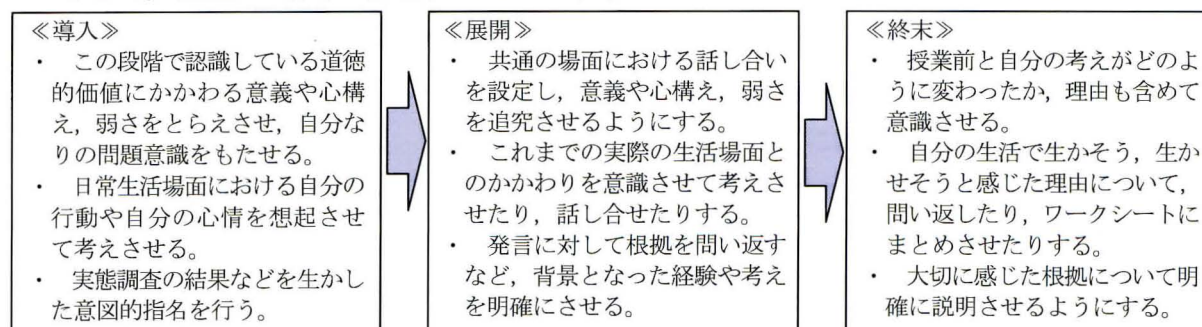
さらに、この年間指導計画を踏まえ、各学年で重点とした指導内容について、関連する各教科等の指導内容や体験活動等の中で子どもたちが感じる道徳的価値にかかわる意識の傾向から、その意識を道徳の時間との関連の中で連続・発展させていく指導計画を明らかにしていくことにした。

(3) 子どもの道徳的価値にかかわる意識を連続・発展させる言語活動の考え方

道徳の時間の学習は、言語活動を中心に展開される。このことから言語活動の充実においては、どのようなかかわりを通して、どのようなことを考えさせるかが重要である。

具体的には、日常生活において子どもが漠然と感じている道徳的価値にかかわる意識について、教師の意図的な働きかけによって、言語活動の中でしっかり認識させるようにしながら、道徳的価値に対する見方等を深めたり広げたりさせ、道徳的価値の自覚を深めるようにする。また、授業を通して再構成される道徳的価値観を、日常生活を想定してとらえ直して話し合わせたりしながら、再構成した道徳的価値観の生活の場面におけるよさや、それを考えることのできた自分のよさや成長を実感できるようにする。そうすることで、子どもたちの感じている道徳的価値に対する意識は、学び取ったものとの関連性を通して、連続・発展していくのではないかと考えた。また、自分の生き方を見つめ、よりよく生きようとする自分のよさを実感し、道徳的実践力を高めていくことができるようになるのではないかと考えた。

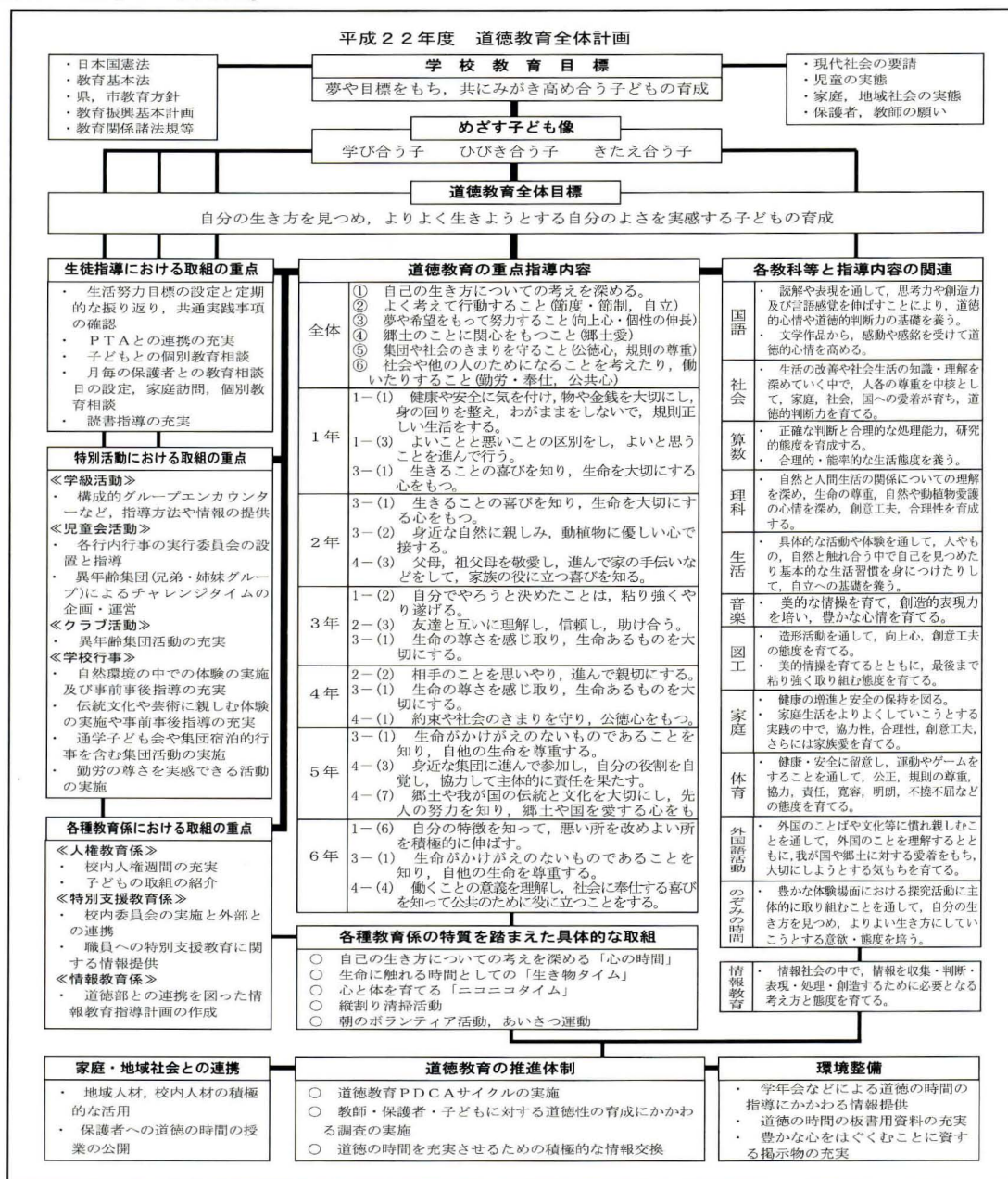
そこで、道徳の時間の各過程において、次のような教師の働きかけを設定した。



4 子どもの道徳的価値にかかわる意識を連続・発展させる道徳教育カリキュラムの具体化

(1) 各教科等や体験活動等との関連を図った道徳教育全体計画

全体構想を踏まえ、道徳教育カリキュラムにおける道徳教育全体計画について、以下の図3のように考えた。



【図3 道徳教育全体計画】

この道徳教育全体計画作成に当たっては、「豊かな心をはぐくむ全体計画」の内容を踏まえて、各教科等ならびに生徒指導や特別活動、その他の各種教育係との連携において、具体的な指導内容や取組の重点が明確に分かるようにした。指導内容や取組の重点が一目で確認できるようにすることで、それぞれの取組を実施する中で、常に道徳教育との関連を意識させるものになると考えたからである。

(2) 子どもの道徳的価値にかかわる意識やその連続・発展していく過程を示した指導計画

子どもの道徳的価値にかかわる意識を連続・発展させる指導計画の考え方を基に、道徳の時間と各教科等の指導内容や体験活動等との関連を明確にした年間指導計画を図4のように作成した。

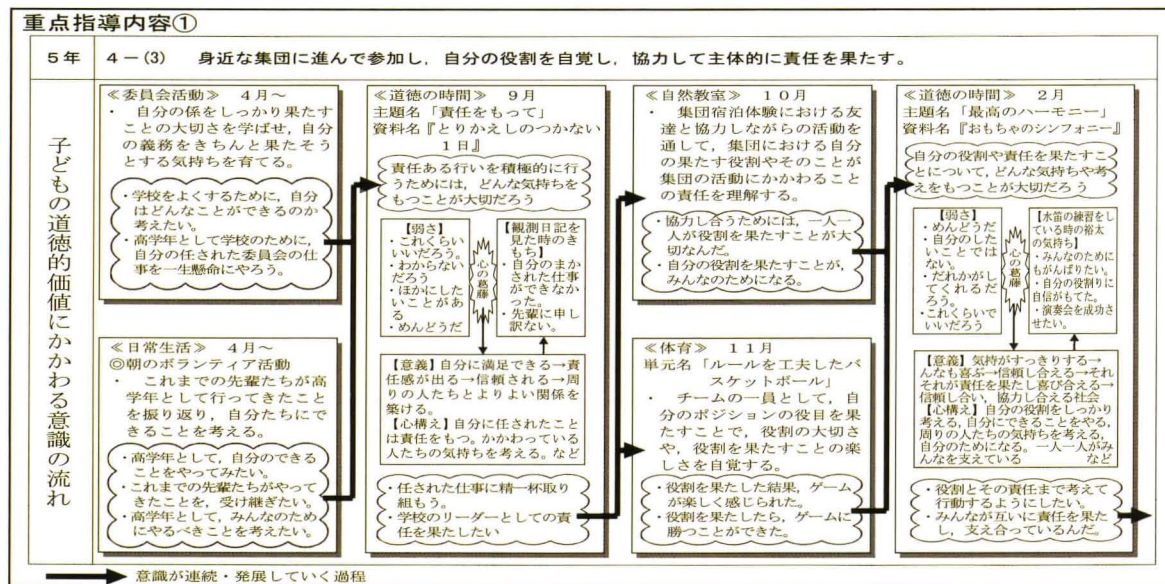
第5学年年間指導計画一覧

期	月	週	関連内容	主題名	資料	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	のぞみ	特別活動	その他		
前	4	1	向上心・個性の伸長	自分の長所	【読】「マンガ家になろう」文芸堂					歌声あわせてこいのぼり(4-7)		はじめまして通称課(家)の一人として(4-5)					部活動・スポーツ少年団活動 2(1)(3) 4(1)(7)		
		2	公理心、規則意識、権利・義務	権利と義務	【読】「セルリアン」光文書院	「電通」が面白いの手紙、お母の手紙(4-5)													
		3	思考・反省、節度・節制	流行おくれ	【読】「流行おくれ」日本文芸出版														
		4	思いやり・親切	手伝わなないで	【読】「重いつの少女」日本文芸出版	「サカサマ」のトクマハ(4-5)													
		1	家族愛	たまたご焼き	【読】「たまたご焼き」文芸堂														
		2	愛校心	気晴らしの学校に	【読】「代表委員会が学校をつくる」日本文芸出版														
		3	礼儀	あたり前のこと	【読】「得ちあひ」で出合った少女」文芸堂														
		1	自然愛・環境保全	もったいない	【読】「もったいない」学研														
		2	生命尊重	自分を大切に	【読】「母とながめた一番星」学研														
		3	希望・勇気、不憚不屈	目標をもって	【読】「嵐前でも急メダル、最低でも金メダル」光文書院														
期	7	1	公正・公平、正義	アンパイヤの心	【読】「公平なしんぼん」日本文芸出版													係・委員会活動 4(1)(3) 4(1)(4) 4(1)(6)	
		2	自由・規律	文枝の自由	【読】「文枝のため息」光文書院														
		1	創意・進取	何とか自分の手で	【読】「天からの手紙」文芸堂														
		2	節度・節制、自立	よく考えて	【読】「ひみつのトレンディ」光文書院														
		1	誠実・明朗	多かっただおつり	【読】「多かっただおつり」日本文芸出版														
		2	希望・勇気、不憚不屈	困難を乗り越えて	【読】「富士輪廻をつくるために」光文書院														
		3	役割・責任の自覚	おきなななじみ	【読】「女がしょうぞう」日本文芸出版														
		1	役割と責任の自覚	責任をもって	【読】「とりかえしのつかない一日」学研														
		4	勤労・社会奉仕、公共心	一枚の紙きれ	【読】「牛乳配り」文芸堂														
		3	細心愛、愛国心	日本の文化	【読】「和太鼓調べ」日本文芸出版														
後	12	1	公徳心、規則の尊重	ひろったあきかん	【コ】「ひろったあきかん」自作資料	「わたつこの日の神様」(4-7)												朝のボランティア活動 4(1)(3) 4(1)(4) 4(1)(6)	
		2	生命尊重	わたしに付けてよ	【コ】「生きてくことのすばらしさ」自作資料														
		3	思いやり・親切	だれに對しても	【読】「くずや」藤村														
		4	国際理解・親善	世界のひととつながる	【読】「アイライク」日本文芸出版														
		5	生命尊重	命の尊さ	【読】「だくうでに力を」学研														
		1	4-4	勤労・社会奉仕、公共心	待っている人のために	【読】「母の仕事」光文書院													
		2	3-3	敬虔	ほんとうの美しさ	【読】「美しいお面」学研													
		1	1-4	誠実・明朗	変わらな心	【読】「リヤ王」光文書院													
		2	2-4	寛容・謙虚	相手の立場	【読】「すれちがいの学研													
		1	2-3	信頼・友情、助け合い	言葉のおくり物	【読】「言葉のおくり物」文芸堂													
期	2	1	細心愛、愛国心	自分の町は	【読】「わたしたちの町」日本文芸出版													運学子ども会 2(1)(2) 2(1)(3) 4(1)(1)	
		2	4-7	生命尊重	命の尊さ	【読】「命の尊さ」日本文芸出版													
		3	4-3	役割と責任の自覚	最高のハーモニー	【読】「おもちゃのシンクロナイザー」文芸堂													
		4	1-5	創意・進取	まず一歩を踏み出そう	【読】「空を飛ぶ」日本文芸出版													
		3	1-6	向上心・個性の伸長	短所も長所	【読】「はげまし合ひ」日本文芸出版													
		2	2-6	尊敬・感謝	みんなのために	【読】「みんなのために」光文書院													
		1	1-1	向上心・個性の伸長	短所も長所	【読】「はげまし合ひ」日本文芸出版													
		2	2-6	尊敬・感謝	みんなのために	【読】「みんなのために」光文書院													
		3	1-6	向上心・個性の伸長	短所も長所	【読】「はげまし合ひ」日本文芸出版													
		4	2-6	尊敬・感謝	みんなのために	【読】「みんなのために」光文書院													

【読】…副読本 【ス】…スライド 【バ】…パネルテープ 【ピ】…ビデオ 【コ】…コピー

【図4 各教科等の指導内容や体験活動等との関連を明確にした第5学年における道徳の時間の年間指導計画】

この年間指導計画においては、各学年の重点化した指導内容を中心に、各教科等の指導内容や体験活動等の中で、道徳の時間の指導内容と関連すると思われるものを抽出し、色をつけることで明確に意識できるようにした。さらに、実態調査等の結果から子どもが道徳的価値を意識しやすい各教科等の指導内容や体験活動等の傾向性を考慮し、関連を図っていくことが効果的であると考えられるものについて、太枠で囲むとともに、図5で示すような重点指導内容についての指導計画を作成し、道徳の時間とのかかわりの中で、どのような道徳的価値にかかわる意識を連続・発展させていけばいいかを示すようにした。



【図5 子どもたちの道徳的価値にかかわる意識の連続・発展する過程を示した重点指導内容の指導計画】

このことで、それぞれの教師が各教科等の指導、体験活動での指導に当たる際に、どのような道徳的価値について、どのような方法で子どもに意識させるようにすればいいのかということをも十分に理解した上で、指導を行うことができるようになる考えた。

(3) 子どもの道徳的価値にかかわる意識を連続・発展させる言語活動例

道徳の時間においては、道徳的価値にかかわる意義や心構えに対して、対話活動を通して、見方等をより深めたり広げたりできるようにした。その際、学び取った意義や心構えを、これまでやこれからの生き方の中でとらえさせるようにした。そうすることで明確に自覚できていなかったと思われる道徳的価値にかかわる意識や、道徳の時間に学び取った意義や心構え、弱さと、意義や心構えを大切にすることで感じられるよさなどが、道徳的価値にかかわる意識として連続・発展していくものになるようにした。

【第5学年 4-(7)主題名「自分の町は」の授業における言語活動例】

意義や心構えをこれまでの生き方の中でとらえさせるようにした。

意義や心構えについて考える場面で対話活動を設定し、友達や教師とのかかわりの中で、多様な道徳的価値観に触れることで、道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりできるようにした。

意義や心構えをこれからの生き方の中でとらえさせるようにした。

これまでの生き方の中で、自分がどのような弱さをどのような場面で感じていたかを具体的に意識させることで、学んだ意義や心構えとの関連性をとらえられる。

これからの生き方の中で、どのような意義や心構えをどのような場面で生かすことができるかを具体的に意識させることで、学んだ意義や心構えとの関連性をとらえられる。

Ⅲ 研究の実際

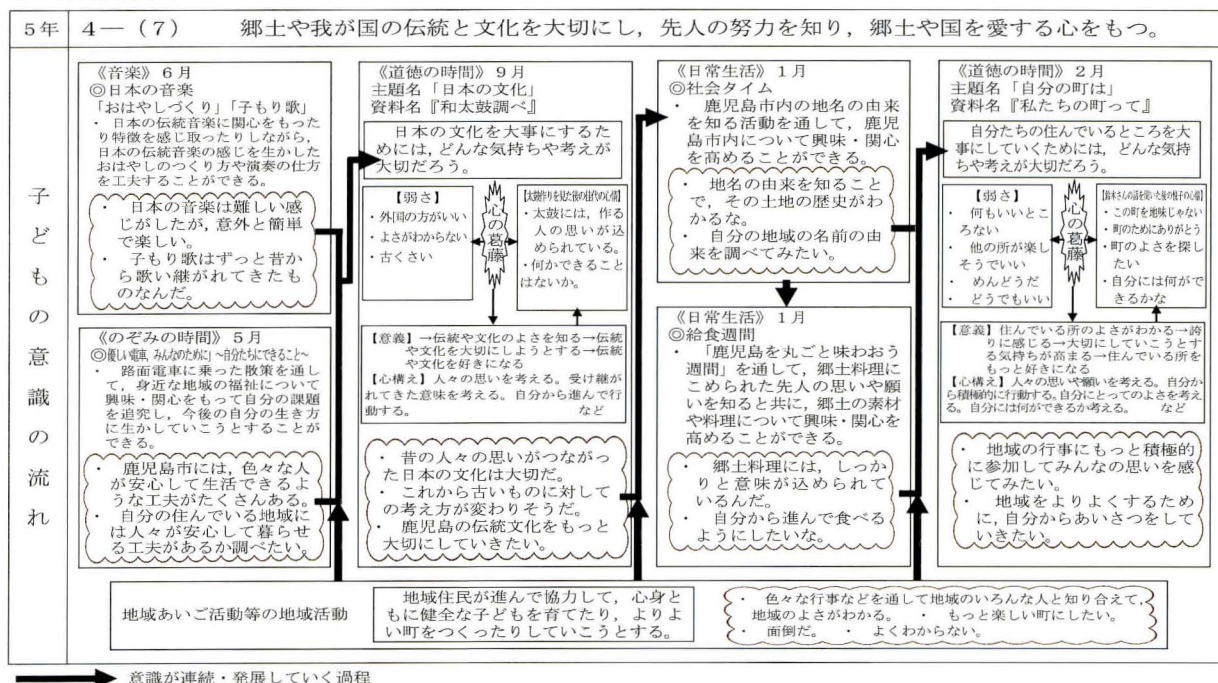
1 実践の基本的な立場

道徳の時間における自分の生き方を見つめ、よりよく生きていこうとする自分のよさを実感する子どもの姿を想定し、その姿を表出させるための学習内容、教師の働きかけについて具体的に示した。検証の視点・方法について以下に述べるとおりである。

検証の視点	1 道徳の時間と関連付けた体験活動、各教科等の指導内容は妥当であったか。 2 道徳の時間に想定した意識を連続・発展させる子どもの姿は妥当であったか。 3 道徳の時間と関連付けた体験活動、各教科等の指導内容での子どもの意識を連続・発展させるために設定した言語活動は妥当であったか。
検証の方法	・ 授業中の発言内容やつぶやき、表情、ワークシートへの書き込みなどから ・ 学習の振り返りとして記述した自己評価の内容から ・ 授業後の日記の内容、行動の変容などから

2 指導計画と子どもの姿の想定

(1) 指導計画



実態調査を行った結果から、子どもたちが意識しやすい体験活動、教科等の指導内容は「のぞみの時間」（総合的な学習の時間）や地域あいご会などの地域活動等であった。それらをカリキュラムの中で重点的に関連付けていくことにした。さらに、重点的に関連付けていく体験活動、教科等の指導内容について子どもたちがどのような意識をもちやすいかといった意識の傾向を実態調査から以下のように明らかにし、道徳の時間の中でどのように関連させていくかといった指導計画を作成した。

<p>子どもたちの意識の傾向</p> <p>【のぞみの時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる町には、誰もが安心して暮らせるような工夫があり、そのために努力している人々がいる。 ・自分たちにはどんなことができる考え、行動してみたい。 ・住みやすくする工夫は見つからない。 など 	<p>【地域あいご会等の地域活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の意味を考え、自分から進んで参加する。 ・自分が活動することで自分の住んでいる町や地域がよりよくなる。 ・よくわからない。 ・つかれるし、めんどろだ。 など
---	--

(2) 子どもの姿の想定

【気付く】

- ・ 道徳的価値について、学校内はもちろん、学校外での体験活動を中心とした自分の生活とのかかわりの中で考え、切実感のある自分なりの問題設定をしている。

【さぐる・見つける】

- ・ 自分の考えの根拠となっている体験やその時の心情を明確にし、それを基にして友達との話し合い活動をしている。
- ・ 道徳的価値に対して、自分の考えの根拠を基に、比較したり関係付けたりしながら考えている。

【深める・見通す】

- ・ 自分の生活、特に体験活動とのかかわり意識しながら学んだことをとおして、これまでの生活の中で振り返ったり、これからの生活に生かしていこうとしたりと自分の道徳的価値についての考えをワークシートにまとめている。

3 実践結果と考察 第5学年 主題名「自分の町は」 資料名「わたしたちの町って」 (光文書院)


(1) ねらい

ア 郷土や我が国の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつことにかかわる自分自身の生き方を見つめ、自分自身のもつ心の葛藤を乗り越えて、自分の住んでいる町や地域を大切にしようとする気持ちを高めることができる。

イ 郷土や我が国の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつことにかかわる見方・考え方・感じ方を自らの体験場面での内面と関係付けながら考え、表現することができる。

ウ 無関心や外への欲求などの心の弱さから、自分の住んでいる町や地域を大切にできないことがあることに気付くとともに、自分の住んでいる町や地域を大事にするための意義や心構えの大切さを理解することができる。

(2) 学習内容

<p>【心の弱さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ よくわからない (無関心) ・ 他の所が楽しそうでいい (外への欲求) ・ めんどうだ (怠惰な感情) ・ どうでもいい (無責任) ・ いやだ (嫌悪の感情) 		<p>【意義・心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 住んでいる町や地域のよさがわかる ◎ 住んでいる町や地域にほこりを感じる ○ 住んでいる町や地域についてもっと知りたいという気持ちが高まる ◎ 人々の思いや願いを考える ◎ 自分から積極的に行動する ◎ 自分には何ができるか考える
---	---	---

自分の考えを自身の体験したことを基に、根拠を明確にしながら友達と話し合っている。

(3) 授業の実際と考察

<p style="writing-mode: vertical-rl;">気付く</p>	<p>子どもの意識の流れ</p>	<p><input type="checkbox"/> 教師の働きかけ <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの姿</p>			
	<p>自分の住んでいる町や地域を大事にしていく活動や取組に参加できたことや参加できなかったことはありませんか。</p>	<p>これまでの体験活動を想起させ、そこから感じているそれぞれの考えや思いを発表させる。</p>			
	<p>自分の住んでいる町や地域を大事にしようとするにかかわる自分なりの</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;"> みんなのためになる。 自分が楽しくなる。 自分から進んでやりたい。 </td> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> 矛盾 </td> <td style="padding: 5px;"> よくわからない。 めんどうだ。 どうでもいい。 </td> </tr> </table>	みんなのためになる。 自分が楽しくなる。 自分から進んでやりたい。	矛盾	よくわからない。 めんどうだ。 どうでもいい。	<p>地域あいご活動等の地域活動への参加状況などの体験の中での考えの違いや、思いや行為などの矛盾から問題意識を高めさせる。</p>
	みんなのためになる。 自分が楽しくなる。 自分から進んでやりたい。	矛盾	よくわからない。 めんどうだ。 どうでもいい。		
<p>考えていきたい問題 (個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の住んでいる町や地域を大事にできる時とそうでない時があるのはどうしてだろう。 ・ いつも自分の住んでいる町や地域を大事にしていくためには、どんな気持ちが必要だろう。 ・ 自分の住んでいる町や地域を大事するのはなぜ大切なのだろう。 	<p>地域あいご会活動などの地域活動への参加といった、子どもたちに共通する体験の中で「郷土愛」に関連する内容についての考えや思いを発表し合い、そこで生じた矛盾から一人一人が切実感のある問題を設定していた。(視点1・2)</p>				
<p>考えていきたい問題 (全体の方向性)</p> <p style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 自分の住んでいる町や地域を大事にしていくためには、どんな気持ちや考えが必要だろう。 </p>					

さ
ぐ
る

見
つ
け
る

資料「わたしたちの町って」を一読後、自分なりの追究場面を設定

洋子に町のことを聞かれた場面 鈴木さんと会話した後の場面

洋子から「この町地味じゃない。」と言われた悦子はどんな気持ちだっただろう。

鈴木さんから町についてのくわしい話を聞いた後、悦子さんはどんな気持ちだっただろう

地味だ 外の場所のほうがいい よくわからない 興味がない

すごいな ありがとう わたしたちの町は 地味じゃない

主人公の心情と自らの体験場面と類推させて考えさせる。

自分自身の似た経験やその時の心情から、主人公の心情への共感を高めさせる。発表の際は、「みんなも同じように感じたことはなかったか、それはどんな時か」と全体へ問い返すことで発言の背景にある根拠を明確に考えさせる。

地域行事への参加などの体験場면을想起し、主人公の心情への共感を高めることができた。(視点1・2)

鈴木さんの話を聞く前後では、悦子さんの気持ちが大きく変わっているね。何かに大切にしたい気持ちや考えに気付いたんじゃないかな。

C1: わたしは、住んでいる人のよさに気付いたと思う。有名人が町にいたら、うれしい気持ちなるなあ。

C2: これまでの人々の協力や苦勞に気付いたんじゃないかな。わたしの住んでいる所でも地域の清掃活動はずっと続いているらしいよ。

C3: わたしの考えと近い。伝統や歴史があるということに気付いたと思うよ。ぼくの所のあいご会も歴史長いよ。

C4: 町のよさに気付いたということなんじゃない。けど、この「ほこりに気付く」という考えはどういうことなの。

C5: 町をほこりに思うということ。今の話を聞いていると、町のよさに気付くことで町にほこりを持つてと思う。のぞみの学習で中央駅の地下道を調べたら、色々な工夫があつて感心した。

T: 今の話を聞いているとほこりを感じるということですね。みんなが話し合ったものを見て、何か気付くことはありませんか。

C6: ほこりを感じれば、「もっとよさをみつけたい」「自分に何ができるか」と思うんじゃないかな。「町のことを調べていきたい」という考えにつながると思う。

○ 自分の考えを話し合いシートに書かせ、それを基に対話活動を行わせる。

(それぞれの話し合い)

自分と友達との考えを比較させたり、関係付けさせたりしながら話し合わせ、見方・考え方・感じ方が深まったり広がったりできるようにする。その際、それぞれの考えの根拠を地域行事や活動へ参加やのぞみの学習などの体験活動から話し合わせ、根拠を明確にさせる。

話し合いシートを活用したことで、一人一人が自分の考えの根拠となった体験活動などの背景を明確にして話し合う姿が見られた。(視点3)

それぞれの考えの背景を地域での活動を通した体験活動を意識させて話し合わせたことで、学習して感じたことと自分の生活とのかかわりを意識しながら考える姿が見られた。(視点1・2・3)

T: みんないろんな気持ちや考えに気付いたんですね。こんな気持ちに気付いていれば、みんな地域の行事にも参加できるんじゃないかな。

C7: だって面倒なんだよね。ついついそう思ってしまう。

C8: 知らない人も多いから、ちょっと恥ずかしい。

T: なるほど、よくわかります。じゃあ、資料の悦子さん鈴木さんの話を聞いた後、他にどんなことを考えたかな。

C9: 「もっとよさを見つけてみよう」「自分にこれから何ができるかな」ということを考えていると思う。ぼくだったら、社会タイムで紹介された地名についてもっと調べてみたい。

T: 話し合いから、自分の考えがまとまってきたようですね。では、自分の考えをじっくりまとめてみよう。

○ 話し合ったことを基に、自分の考えをまとめていけるようにする。

(全体での話し合い)

話し合いで感じた見方・感じ方・考え方を実際の体験場面とのかかわりの中で捉え直させる。そのことで、価値にかかわる意義や弱さなどに対する見方等をさらに深めたり広げたりさせると共に、自己の成長を感じさせることができるようにする。

体験活動での意識と関係付けながら、道徳的価値への見方・感じ方・考え方をさらに深めたり広げたりする姿が見られ、それを感じることができた自分へのよさを実感している姿が見られた。(視点1・2)

深める
↓
見通す

今日の学習で強く感じた気持ちや考えはどんなことですか。それは、自分の生活とどのようにかかわっていますか。自分の考えをまとめましょう。

今日の学習で強く感じた気持ちや考えをまとめよう。

今日の学習で強く感じた気持ちや考えをまとめよう。

今日の学習で強く感じた気持ちや考えをまとめよう。

今日の学習で強く感じた気持ちや考えをまとめよう。

今日の学習で強く感じた気持ちや考えをまとめよう。



今日の学習で強く感じた気持ちや考えをまとめよう。

まとめのポイント

- ☆ 自分の考えていきたい問題と・・・で関係している。
- ☆ これまでの自分を振り返ると・・・だ。
- ☆ 大切だと強く感じたことを・・・大切にできそう。
- ～のようにできそう。
- ～のように変わりそう。
- ～のようにありたい。
- ☆ 授業の前と気持ちや考えが変わったのは・・・だ。

のぞみの学習で調べた公園の工務さんや、おじいさんの話を聞いた。自分の家も近くも詳しく調べたい。

知っている人がいなくても自分から地域活動に参加したい。

学習を通して強く感じた気持ちや考えと体験活動とのかかわりを意識させ、学習をまとめさせる。

ワークシートを活用したり、振り返りの観点を提示したりして、これまでの地域の体験活動と今日の学習で感じたこととのかかわりをより意識させる。

これまでの子どもたちの体験活動等で感じていた意識と今日の学習で感じたこととのつながりを考える等、これからの自分の生活に期待感をもってまとめている子どもの姿が見られた。(視点1・2)

(4) 実践の考察

- 子どもたちは、体験活動や各教科等とのかかわりを意識させることで、道徳的価値への見方・感じ方・考え方を深めたり広げたりする姿が見られたことから、関連付けたカリキュラム、指導計画は妥当であったと考えられる。
- 子どもの意識を連続・発展させることを教師が意識して言語活動を設定し、子どもたちにかかわることで、子どもたちは、これまで感じていた道徳的価値観をより自分とのかかわりの中で再構成し、自分の生活に期待感をもつことにつながったことから、設定した言語活動は妥当であると考えられる。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 各教科等や体験活動等の重点となる指導内容や活動内容との関連を図った道徳教育全体計画を創造することができた。
- 根拠を明確にした問題設定ができる子どもの姿や、話し合い活動において、考えの根拠として自分の経験やその時の心情を説明しようとする子どもの姿が見られた。
- これからの生活を具体的に想定して、自分の考えのよさや成長を実感することができた子どもの姿が見られた。

2 研究の課題

- 年間指導計画や指導計画を生かす指導体制や学習指導の在り方をさらに考え、道徳教育の推進や道徳の時間をさらに充実させていく必要がある。
- 整理されたり見直されたりした道徳の時間の内容や情報モラル教育にかかわる内容について、内容分析並びに授業について実践していく必要がある。

【主な参考文献】

- 文部科学省「小学校学習指導要領」 (平成20年)
- 文部科学省「小学校学習指導要領解説 道徳編」 (東洋館出版社 平成20年)
- 岡山県小学校道徳教育研究会・「新しい自分に出会う道徳の学習」 (東洋館出版社 平成21年)
- 高木展郎編集「各教科等における言語活動の充実 その方策と実践事例」 (教育開発研究所 2008年)
- 人間教育研究評議会編「<活用>の力とは何か 新しい学習指導要領の理念と実践」 (金子書房 2009年)